市政トピックス

新しい宮沢橋が開通―地域をつなぐ新たな架け橋に

平成29年から整備を進めてきた新しい宮沢橋（都市計画道路南小泉茂庭線宮沢橋工区）が、9月13日に開通しました。

旧宮沢橋周辺では、交通量の増加に伴う渋滞や、交通安全の確保が課題となっていたことから、橋梁（きょうりょう）の架け替えを含む道路整備を進めてきました。整備区間は若林区舟丁から太白区根岸町までの約3００メートル。宮沢橋を片側1車線から片側2車線に拡幅するとともに、周辺の交差点も改良しました。

▲開通式では、テープカット・くす玉開き（写真上）が行われたほか、南材木町小学校吹奏楽部による演奏（写真下左）や六軒丁睦連（ろっけんちょうむつみれん）によるすずめ踊り（写真下右）が披露され、新しい宮沢橋の開通を祝いました

▲上空から望む宮沢橋（令和8年6月撮影）。旧宮沢橋は令和11年にかけて撤去工事が行われます

開通前日の12日には開通式を開催。地元の小学校吹奏楽部による歓迎演奏や、すずめ踊り団体による演舞が式典に花を添えました。

郡市長は「人と人、地域と地域を結ぶ架け橋として末永く親しまれ未来へ受け継がれていくことを願っています」と、新しい宮沢橋への期待を述べました。

今回の開通により、国道45号と国道２８６号を結ぶ広域的なネットワークが形成され、仙台駅東側地域と南西部地域のアクセスが向上。都心部の交通の円滑化や渋滞の緩和が期待されるほか、災害時には緊急輸送道路ネットワークとしての役割も担います。人や物の交流を支え、安全で活力あるまちづくりにつながる新たな架け橋として、これから地域の暮らしを支えていくことが期待されます。

市政トピックス

障害の垣根を越えて交流―ウエルフェア２０２６を開催

9月27日、勾当台公園と一番町四丁目商店街で、福祉まつり「ウエルフェア２０２６」を開催しました。このイベントは、障害のある方の芸術・文化活動などの発表の機会を設けるとともに、障害者福祉への理解を深めることを目的に毎年開催しています。

勾当台公園では、歌やダンスなどのステージ発表、市内の障害者施設などで作られた「ふれあい製品」の展示・販売などを実施。パラスポーツや要約筆記などのボランティア活動が体験できるコーナーも設けられ、多くの方が楽しみながら交流を深めました。

また、一番町四丁目商店街では、障害のある方が制作した書道や写真、絵画などの作品を展示。障害のある方もない方も共に楽しみながら、障害への理解を深める一日となりました。

市政トピックス

AIアバターが窓口をご案内―青葉区役所で実証実験

青葉区役所では、9月14日からＡＩアバター「ＡＩＣＯ（アイコ）」を活用した窓口案内の実証実験を行っています。これは区役所の若手職員による業務改善チームが中心となり、窓口サービスの向上を目指して取り組んでいるものです。

ＡＩＣＯは庁舎1階に設置され、青葉区の担当窓口や必要な持ち物などを文章や音声で案内します。結婚や出産などに伴う複数の手続きについてまとめて尋ねることもでき、日本語を含む7言語に対応しています。

また、同様のサービスを青葉区ホームページから24時間利用可能で、来庁前に青葉区役所での手続きに必要な持ち物や窓口などを確認することができます。

実証実験は来年1月29日まで行う予定で、利用状況などを検証し、より便利で分かりやすい窓口サービスにつなげていきます。

▲青葉区役所に設置されたＡＩＣＯ。音声のほか、タッチパネルでも操作できます

市政トピックス

国内最高齢のアフリカゾウ「メアリー」推定60歳をお祝い

9月27日、八木山動物公園フジサキの杜で、アフリカゾウ「メアリー」の推定60歳を祝う特別イベントを開催しました。メアリーは昭和58年、推定17歳の時に宮崎県のサファリパークから来園。現在、国内最高齢のアフリカゾウとして、多くの来園者に親しまれています。

イベントでは、来園してからのエピソードや、日々の様子などを飼育員が紹介。高齢になったメアリーが過ごしやすいよう、餌を食べやすくするなど、健康状態に合わせて飼育を工夫していることも紹介されました。

イベントの最後には、60歳を迎えたお祝いとして全国のファンから贈られた果物をプレゼント。メアリーが鼻を使って器用に食べる様子を、多くの来園者が笑顔で見守っていました。

▼お祝いの果物を味わった後、ゆっくりと歩くメアリー

▲寄付していただいたメロンやシャインマスカットなど、特別な果物を味わいました

市政トピックス

地域の防犯活動に貢献された方を表彰

市では、10月19日に行われた全国地域安全運動第38回仙台市大会で、6団体・89人の方々を表彰しました。このうち、防犯功労団体、防犯功労者、退任感謝状を贈呈した方は、次のとおりです（順不同・敬称略）。

〔防犯功労団体〕東一市場商業協同組合、秋保防犯協会、総合グランド前防犯協会、福田下パトロール隊、仙台荒町子まもりプロジェクト実行委員会、六丁の目防犯協会

〔防犯功労者〕山崎輝樹、白根一男、阿部孝志、阿部文治、梶谷俊夫、京千春、庄司利信、二宮健、大橋徹也、東條洋一、阿部衛、遠藤幸雄

〔防犯指導隊員・防犯女性部員退任〕昆秀氏、前川洋、吉田京子、福田進次、早川靖記、管澤信一、鵜山勝利、佐々木栄尚、板橋悦子、佐藤孝子

3・11震災文庫を読む 91

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

「あの日」のことをこどもに伝える本

小説家　もえぎ　桃

「白い犬　あの日の行方」

おおぎやなぎちか／作
ふすい／絵
新日本出版社　刊

震災とその後を、こどもの視点で描いた児童文学。作者は「みちのく童話会」の代表で、秋田県出身のおおぎやなぎちかさんです。

震災で祖母と父を亡くした小学6年生のゆかり。家族の死、仮設住宅での暮らし、転校と、ゆかりの生活は目まぐるしく変わっていきます。その日々には、震災後しばらくして拾った白い犬がいつも寄り添ってくれていて……。「シロがいなかったら、あたしは、この日々を耐えることはできなかった。」誰にも言えない思い、喪失感や辛さを抱えつつ、乗り越えようとしていく姿が胸を打ちます。

「あの日」を知らない世代に、「あの日」を伝える物語です。

「仙台版防災教育副読本　3・11から未来へ」

仙台市教育センター／編
仙台市教育委員会　刊

東日本大震災の教訓を踏まえ、こどもたちが生涯にわたって必要な防災能力を身に付けられるよう仙台市教育委員会が作成した教材です。「小学校1・2・3年」「小学校4・5・6年」「中学校」とあり、仙台市のホームページからどなたでも閲覧できます。その時が来たらどう行動すべきか、その時のためにどう備えるかなど、「小学校1・2・3年」版ではとても分かりやすく書かれています。

震災の正しいデータや当時のこと、被災後の取り組みは、資料や記録としても。津波被害を受けた校舎や避難者であふれかえる小学校の写真には、「あの日を忘れてはいけない」という思いを新たにしました。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます　問市民図書館☎261・1585